

二階貸し部屋図

大鵬の間

聴松の間

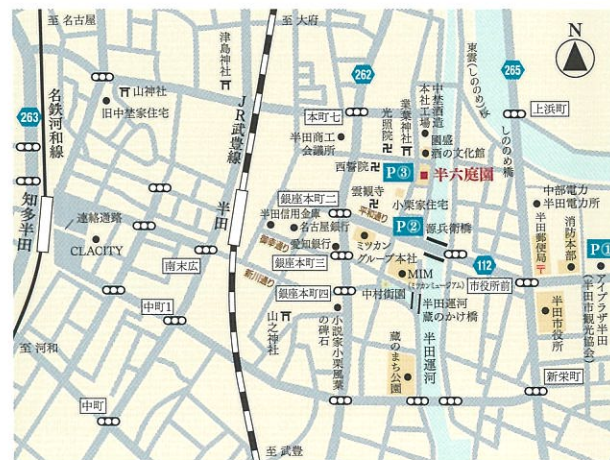
ホーテックへ <https://hanroku-collabo.org/>



NPO法人 まちの宝を 通して 活かす
半六コラボ
HANROKU COLLABO

昭和四十年代半ばから五十年代初めまで、大相撲名古屋場所の折には、二所ノ関部屋宿舎として使われており、母屋二階では、第四十八代横綱大鵬関が就寝していたといいます。大鵬関は、半世紀近く破られなかった本場所優勝三十二回の大記録を持つ横綱であり、亡くなる数年前にもこの地を訪れて、当時を偲んでいたそうです。

HANROK
ホームページ



旧中塲半六邸貸し部屋、HANROK、ばあむくうへん研究所
をご利用の方は各専用駐車場(P③)もご利用ください。





母屋



東門前の広場



日本庭園

庭園内のご案内

約3,000平方メートルある庭園は、市民の憩いの場、半田市を訪れる方々のおもてなしの場として開放されており、散策の一休みにちょうど良いあずまや、旧中塀半六邸内の飲食店などでおくつろぎいただけます。昔ながらの黒壁の蔵を改装したトイレが特徴的です。



ばあむくうへん研究所



HANROK



中塀半六家は、古くから当地方屈指の大地主のひとつであり、海運と醸造業など手広く商う豪商でした。この庭園の東を流れる半田運河は、古くは阿久比川の河口をなしており、元禄年間から中国酒と呼ばれた当地の酒や酢などの醸造品を盛んに江戸へ船積みしていました。安政年間に、現在のような半田運河が整備されてからは、更に隆盛を極め、近世以降の半田の発展の原動力となりました。現在に残る屋敷と庭は、明治二十二年に築造され、かつては母屋をはじめ茶室や九つの蔵など、多くの棟が建ち並んでいました。回遊式の日本庭園の泉水は運河の海水を引き込み、潮の干満にあわせて水面が上下したといわれています。この広大な屋敷は、戦後の一時期、料亭や横綱大鵬の二所ノ関部屋に貸し出された他はほとんど使われることなく、損傷が進んだ状態でしたが、平成二十七年に半田市が庭園を、半六コラボが母屋をリニューアルオープンしました。旧中塀半六邸は、半田の歩みを物語る貴重な遺産の一つであります。

中塀半六邸の歴史